

暁木会会員 各位

令和 6 年 3 月 吉日

暁木会

<http://www.gyoubokukai.jp>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。暁木会ニュース第 50 号では市民工学科・専攻の近況報告、就職状況の報告、卒業生へのメッセージ、研究報告、現役最前線、同窓会報告、支部総会報告、および暁木一水会の活動報告を寄稿いただきました。暁木会活動の報告および令和 5 年度総会の案内とともに、ぜひご一読いただきますようお願いいたします。

市民工学科・専攻の近況報告

令和 5 年度 専攻長・学科長 教授 竹山智英

暁木会会員の皆様には、日頃より市民工学専攻・市民工学科の運営ならびに教育に多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度開始当初は、未だ新型コロナウイルス感染症拡大の影響が残っており、様々な行事の開催に際し、一定の配慮が必要な場面もありましたが、5 類感染症移行に伴い、大学での活動制限指針の全項目がレベル 0（通常）に引き下げられ、感染症自体はなくなっているものの、平常を取り戻しました。定例の暁木会・KTC と教室との意見交換会も通常通り 7 月 26 日、10 月 12 日、1 月 26 日と年 3 回開催され、意見交換会後の懇親会も行うことができました。会費会員増に向け、暁木会・KTC について現役学生により身近に感じられるような企画として、4 月には、学部 3 年生を対象として業界説明会を開催いたしました。参加した学生は約 65 名であり、学生からも参加していただいた OB の皆様からも好評でした。来年度も同様に開催したいと考えています。11 月には、新型コロナウイルス感染拡大前は恒例であった市民工学科・市民工学専攻のフットサル大会も開催されました。研究室や学年を超えた縦横のつながりを持ち、学科・専攻の一体感の醸成の一助となったと思います。暁木会からの助成に加えて、優勝カップを購入していただいていることから、今年度から暁木会カップとして開催することになりました。今年度は、横断幕も作製していただき、会長より優勝カップの授与、表彰等を行っていただきました。また、10 月にはホームカミングデイが通常通り開催されました。ここでも暁木会の皆様にご協力いただき、来学した小学生向けに「橋の学校」という模型製作などの体験型のイベントを開催していただきました。同日、暁木会および KTC 役員を永年にわたり務められ、大学への支援等の多大なる貢献により池野誓男様が、神戸大学工学功労賞を受賞されました。

教育に関しては、暁木会の皆様のご協力を得て、今年度も「プロジェクト・マネジメント」、「公共施設工学」等の科目を開講いたしました。また、学外実習では、多くの学生を受け入れていただきました。これらの科目は学生にとっては、現場の声を伺える大変貴重な機会になっております。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、今後も引き

続きご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に教室の教員体制について報告いたします。市民工学専攻の教員組織は人間安全工学講座、環境共生工学講座の2講座体制で、各講座に6つの教育分野が設けられています。令和6年度の専攻長・学科長は中山恵介教授、教学委員は三木朋広准教授です。現在のM1学生と学部3年生の就職担当は織田澤利守教授、その次の年度の就職担当は竹山が担当する予定です。表1に令和6年1月時点での教員体制を示します。人事異動としましては、令和5年7月1日付で、鎌田泰子准教授が人間安全工学講座地震減災工学分野教授に昇任されました。また、令和5年3月をもって、銭谷誠司准教授がオーストリアの宇宙科学研究所へ、片岡沙都紀助教が北見工業大学へそれぞれご異動されました。祇園景子准教授は、主配置はバリュースクールであり、これまでと変わりありませんが、工学研究科への配置が解除されました。

以上のように、暁木会の会員の皆様方からの多大なるご支援に基づいて、市民工学専攻・市民工学科の教育研究活動と教室運営を着実に進めることができました。教室を代表して、重ねて御礼申し上げますとともに、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

表1 教員体制（令和6年1月31日現在）

講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	芥川真一	三木朋広	
	地盤安全工学	橘伸也		
	交通システム工学	織田澤利守	瀬谷創	
	地盤防災工学	竹山智英		
	地震減災工学	長尾毅* 鎌田泰子		
	流域防災工学		小林健一郎*	
環境共生工学	環境流体工学	内山雄介	齋藤雅彦	
	水圏環境工学	中山恵介		
	地圏環境工学	大石哲* 梶川義幸*（特命）	加藤正司	
	広域環境工学	飯塚敦*		
	都市保全工学	森川英典	橋本国太郎	
	都市経営工学	小池淳司	瀬木俊輔 鶴田宏樹**	

無印 主配置は工学研究科市民工学専攻

* 主配置は都市安全研究センター

** 主配置はバリュースクール（V.School）

就職状況の報告

令和 5 年度 就職担当教員 教授 芥川真一⑩

学生の就職活動に対して多大なるご支援ならびにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。下表は、令和 6 年 1 月時点における就職内定・進学予定状況のまとめです。皆様方のご尽力のお陰で、概ね例年通りの就職内定状況となりました。一方、数年間に及んだコロナ禍での就職活動を通して、就職先に関する情報収集や就職活動の方法も多様化しています。その反面、必要な情報が十分に学生に伝達されているとはいえない状況にもあります。これまで熱心にお声がけ頂きながらご縁の薄かった企業様におかれましては、なお一層積極的にアピールして頂ければ幸甚です。令和 7 年 4 月に就職を目指す学生に対しては織田澤教授が窓口となります。今後とも引き続きご支援ならびにご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

分野	学部卒業者		大学院博士課程前期課程修了者	
	人数	就職内定先・進学予定先	人数	就職内定先・進学予定先
国家公務員	0		1	国土交通省 国土地理院
地方公務員	2	愛媛県庁、大阪市	1	神戸市
鉄道	0		6	大阪市高速電気軌道(株)(2)、阪急阪神ホールディングス(株)(2)、西日本旅客鉄道(株)(2)
道路	4	西日本高速道路(株)、本四高速道路ブリッジエンジニア(株)、中日本高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)	3	西日本高速道路(株)(2)、阪神高速道路(株)
総合建設業	7	(株)大林組、大成建設(株)、鹿島建設(株)、竹中土木(株)、前田建設工業(株)(2)、三井住友建設(株)	4	(株)大林組(2)、大成建設(株)、鹿島建設(株)
建設コンサルタント	2	(株)エイト日本技術開発(2)	5	JR 東日本コンサルタンツ(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)(4)
鉄鋼、橋梁、プラント、建材	2	三菱重工(株)、八千代エンジニアリング(株)	3	日揮(株)、JFE スチール(株)、(株)神戸製鋼所
エネルギー	0		8	東京電力ホールディングス(株)、北陸電力(株)、中部電力(株)(2)、関西電力(株)、大阪ガス(株)(2)、(株)関電エネルギーソリューション
通信	0		5	西日本電信電話(株)(2)、KDDI(株)(2)、(株)NTT ドコモ
IT、メディア	0		2	関西テレビ放送(株)、日本 IBM(株)
住宅、不動産、商社、金融、その他	7	関電不動産開発(株)、スマートキャンパ(株)、アビームコンサルティング(株)、(株)オリエンタルランド、デロイトトーマツアクト(株)、(株)SOLIA、(株)ストリンク	5	日立システムズパワーサービス(株)、関電不動産開発(株)、リックソフト(株)、PwC コンサルティング合同会社、塾講師（四谷学院など）
進学	40	神戸大学(34)、東京大学、大阪大学、名古屋大学、京都大学、東京工業大学、École polytechnique	2	神戸大学(2)
その他	1	留年	0	
合計		65		45

卒業生へのメッセージ

都市安全研究センター／市民工学専攻 教授 飯塚敦

ご卒業おめでとうございます。わたしもこの3月末で定年を迎え、神戸大学を去ります。みなさんと一緒に卒業する気分です。

わたしは神戸大学に平成9年4月1日に異動してきました。軽部大蔵先生の研究室で助教授に着任しました。その後、平成16年7月1日に都市安全研究センターに配置換えとなり、平成17年4月1日に教授に昇任しました。本年までの27年間、神戸大学にお世話になりました。多くの優秀または個性的な学生たちに恵まれました。学生たちと共に過ごし、学生たちや卒業生たちに支えられた27年間でした。

研究室の学生たちとは、春のBBQに始まり、院試後には秋旅行、年末にはスキー旅行、卒研後にはカニ旅行と、楽しかった思い出にあふれています。秋旅行では、パラグライダーへの挑戦やパラセーリングでの海上散歩、スキー旅行では、グレンデ山頂からの絶景、宿の貧相な夕食や温泉、カニ旅行では、カニ三昧の飽食の実感、しかし、カニ風味の蒲鉾を見破れなかった「格付け」大会と、思い出が尽きません。いくつか、エピソードを披露しましょう。軽部研究室の一員になったとき、学生たちと金沢にスキーに行きました。どこのスキー場だったかは忘れましたが、当時、金沢大学の教授でいらっしゃった太田秀樹先生がスキーに加わられました。「飯塚先生、あの人は誰ですか?」「あの人はね、金沢でぶらぶら過ごしている照崎平九という人だ」「良いですね。暇にしている人なんですね」。それから数か月後、学会に参加した時、「先生、大変です。金沢で会った、あの人が、壇上で講演しています」「えー、あの人が太田先生なんだ!」。その時、目を白黒させて駆け込んできた学生の姿が思い出されます。パラグライダーへの挑戦はトラウマとなっています。指導員に支えられながら、斜面を駆け下りて宙に浮く。学生たちは次々に成功する。しかし、とうとうわたし一人だけが、地べたを這っただけで終わりました。いつかはリベンジしなければなりません。それに比べ、パラセーリングは快適でした。風を受けての海上散歩は爽快でした。スキー旅行は体力勝負でした。年をとるに従って、夜行バスでの往復がしんどくなってきました。幹事の学生に、二席分の確保を頼んだり、わたしだけ鉄道を使っての別行動としたときもありました。学生たちと過ごしたエピソードを書き連ねるとキリがありません。学生たちから元気をもらい、おかげで今日までやってこれたと実感します。

卒業生の方々にもお世話になりました。苦しい時もありました。転職を思うときもありました。心が折れそうになると、高架下の居酒屋に誘われ、「出る杭だから叩かれるのです。だから、出過ぎた杭になりなさい。出過ぎてしまえば叩く手も届きません」。無茶なことを求めます。このようにして励まし、時には諭し、また時には叱咤し、わたしを支え、鍛えてくださいました。わたしは神戸大学の卒業生ではありません。しかし、この時、親友を得て、正真正銘の暁木会の一員になれたように思います。

大学教員としての本務は教育と研究です。教育者として何を成し遂げたか、そう問われると、答えに窮してしまいます。はなはだ自信がありません。しかし、研究室からは錚々

たる若手エンジニアが巣立っています。博士に進学した学生も少なくありません。彼らの活躍には目を見張るものがあります。彼らはわたしの支えであり、誇りでもあります。何が彼らを前向きにさせているのだろうか？そんな時に、ひとつのテレビ CM が心に刺さりました。エビスビールの CM です。「賢くやれたかより、夢中になれたか？」「効率的にやれたかより、満足いくまでやれたか？」「なにかを成し遂げたかより、どれだけ楽しめたか？」です。「楽しんでいるから、世界は変えられる」。その通りだ。このマインドだ。このマインドを持ち続けければ、卒業生のみなさんは、蛸壺化した土木を、開かれた土木に変えてしまうに違いないと、わたしは確信しています。

研究についても少し触れます。神戸大学に異動してきたとき、軽部先生から「この研究室には、実験データが豊富に蓄積されている。君の仕事は、それらを用いて、不飽和土の力学を体系化し、有限要素法で解析することだ」と言われました。少々、窮屈に感じました。しかし、少しずつでも進めてみようと思心しました。還暦を迎えたとき、軽部先生へ提出する卒業論文の気分で論文を書きました。Extension of unsaturated soil mechanics and its applications というタイトルです。その論文が英国土木学会（ICE）からの賞に輝いたことは、望外の喜びでした。すでに天国におられる軽部先生も喜んで下さったに違いありません。

最後になりましたが、暁木会の方々には、これまで大変にお世話になりました。ありがとうございました。今後どうぞよろしくお願いいたします。

研究報告

次世代インフラシステムの構築へ向けた研究

准教授 三木朋広

防災・減災，国土の強靱化を実現する次世代インフラシステムが求められています．すでに建設された構造物については，より合理的な維持管理システムによって長期にわたり構造物の機能を必要なレベルに保持し続けることも求められます．

大規模な道路橋や鉄道橋に用いられるプレストレストコンクリート（PC）構造では，プレストレスを導入するための緊張材として PC 鋼材が使用されています．本来，高耐久の構造である PC 構造ですが，PC 鋼材の腐食や破断が生じた橋梁がみられます．鋼材腐食が生じると PC 鋼材の断面積が減少し，著しい腐食が生じると鋼材破断に至ることがあります．この PC 鋼材の破断によって，PC 部材の破壊が予兆なく生じて，場合によっては橋全体の崩落といった極めて大きな人的・経済的損失を招くことになります．そのため，腐食した PC 鋼材の力学特性，および PC 部材中のプレストレス力の低下について研究することは，PC 構造の性能低下と破壊特性を評価するために極めて重要です．

従来の腐食プロセスが PC 鋼材に及ぼす影響に関する研究は，鋼材腐食を促進する電気化学的腐食，屋外もしくは促進塩害環境下の腐食，塩化物を含むコンクリート中における腐食など，様々な方法を用いて PC 鋼材の腐食を再現し，その後，取り出した PC 鋼材を対象に引張試験を実施して，引張強度などが計測されます．

一方，我々の研究では，図 1 のように PC 鋼材に導入した緊張力を保持できるリラクセーション試験装置と電食促進装置を組み合わせ，実際の使用状況を再現して，緊張力を

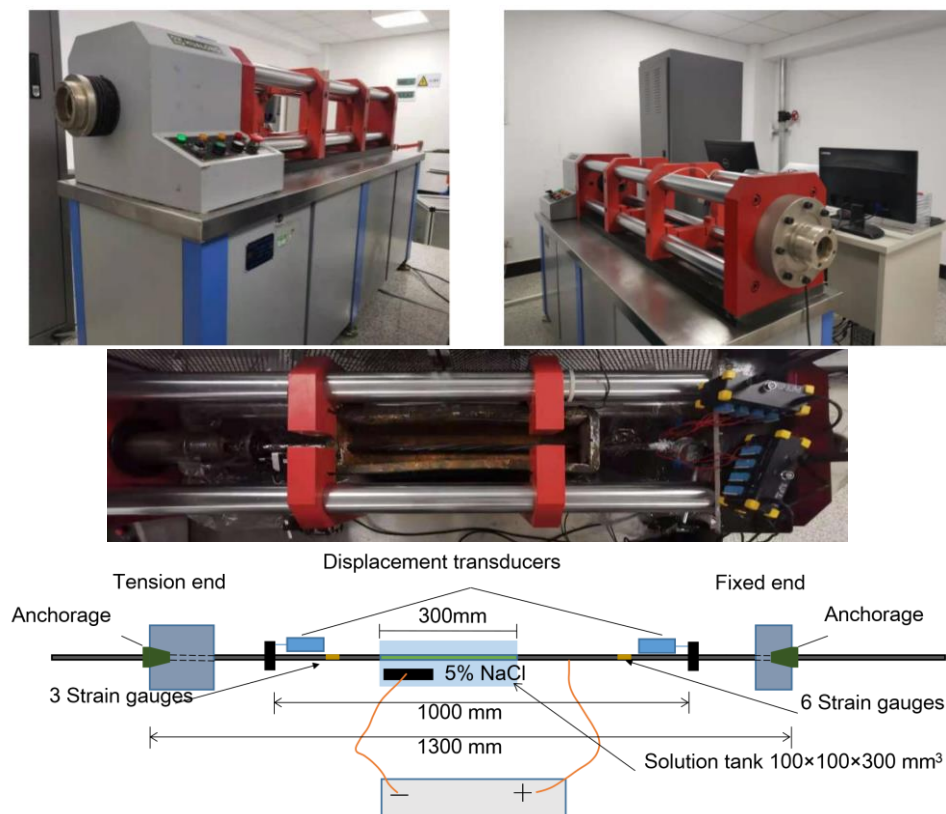


図 1 リラクセーション試験装置と電食促進装置を組合せた試験方法

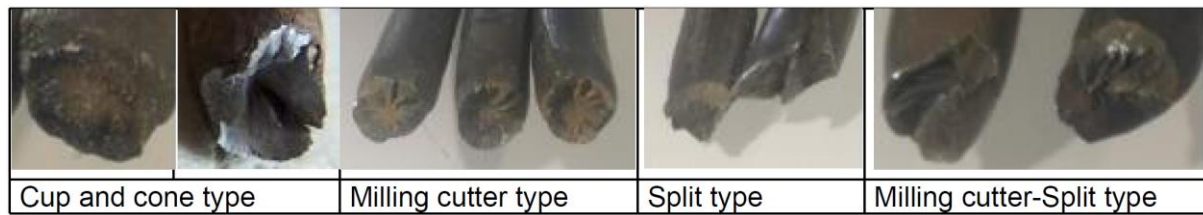


図 2 PC 鋼材の破断面のフラクトグラフィ

作用させた状態の PC 鋼材における腐食プロセス中のプレストレス力や軸方向変位を直接測定するといった革新的な試験を行いました。これにより、既往研究において示された「腐食質量損失率とプレストレス力の関係」とどまらず、「腐食の進行に伴うプレストレス力の経時変化」を捉えることに成功しています。実験では、7 本より 15.2mmPC 鋼より線の試験体を対象として、広範囲の腐食レベルを設定して、鋼材腐食に伴う PC 鋼線のプレストレス力、各素線のひずみ、軸方向変位を経時的に計測した点が特徴です。また、鋼材腐食がプレストレス力に与える影響について、断面や質量の損失率、鋼材破断断面のフラクトグラフィ（図 2、延性破断や脆性破断の分類）、素線ひずみなど、広範な観点から調査しました。これらの結果は、腐食によるプレストレス力の損失メカニズムを明確にし、将来的には腐食 PC 構造物の耐久性研究に貴重な情報を提供するものです。

2022.01.24 <2021 年度成果 更新版> プレストレストコンクリート道路橋 維持管理手引き(案) 令和 4 年 1 月 新都市社会技術融合創造研究会 WG3	目次 1. 基本用語の説明 2. 目的 3. 適用の範囲 4. 橋を構成する要素及び部材 5. PC 橋の概要と着眼点 6. 変状の発生原因と事例 7. PC 橋の点検 7.1 点検ガイドの説明 7.2 橋梁形式に対応する点検ガイド 7.3 点検ガイド 8. 参考資料
---	---

図 3 PC 道路橋の維持管理手引き(案)

<https://www.kkr.mlit.go.jp/road/shintoshikenkyukai/project/80.html>

関連する研究として、国土交通省近畿地方整備局の新都市社会技術融合創造研究会にプロジェクトリーダーとして参画し、PC 道路橋の維持管理手引き(案)（図 3）の作成やデジタルツインを用いた PC 橋の構造性能評価の提案（図 4）も行っており、道路管理や点検・診断の現場への社会実装も行っています。この維持管理手引き(案)や橋梁の撤去更新に関する報告書は上記 URL からダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

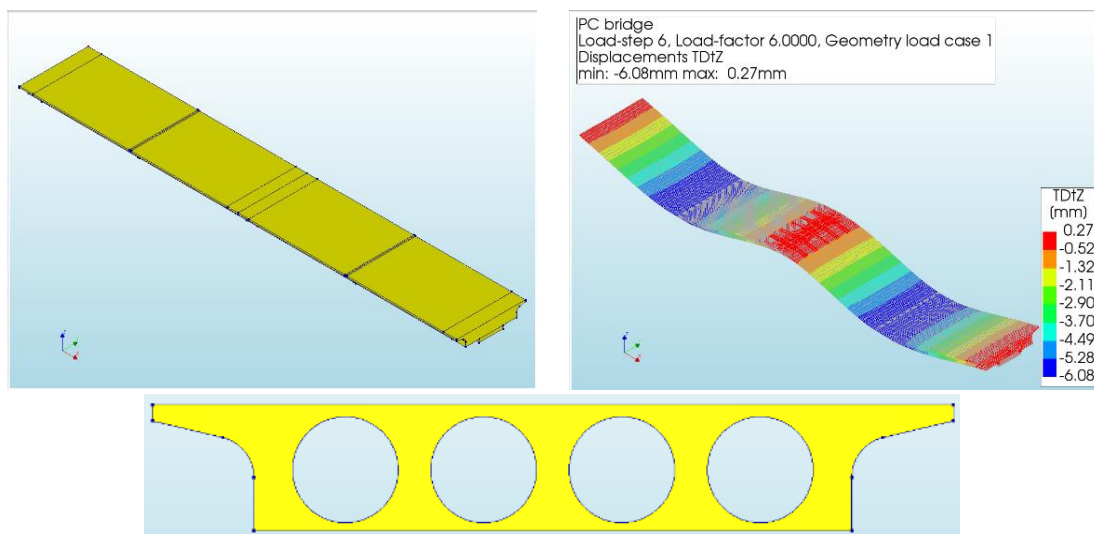


図 4 2 径間 PC 中空床版橋の非線形モデル

大学生活の思い出

修士2年生 友近 温人（齋藤研究室）

学部・大学院での6年間、神戸大学で非常に充実した学生生活を送ることができました。私の大学生活で印象的だった出来事は、大きく3つあります。

1つ目はサークル活動です。私は卓球サークルに所属しており、練習やイベントにはほぼすべて参加していました。サークルのスウェットを着て大学の講義を受けた日々は今でも懐かしく感じます。また、所属サークルの会長や連盟の役員も経験しました。100人以上所属するサークルを運営することは学業やアルバイトでは得られない貴重な経験であり、数多くの教訓を得ることができました。卓球は三密を伴うスポーツであるため、コロナ禍においては活動が大きく制限されましたが、それでも唯一無二の経験ができました。

2つ目は、学業です。大学生活では学業に最も力を入れていたといっても、過言ではないと思います。希望の研究室に行くためという理由もありましたが、土木そのものが好きだったため、毎日の講義を楽しく受けていました。講義終了時には質問に行くことが多かったのですが、どの先生も丁寧に教えてくださり、理解を深めることができました。

3つ目は、研究活動です。B4では澁谷啓先生、M1では片岡沙都紀先生、M2では齋藤雅彦先生と、毎年異なる先生に指導教員をご担当いただきました。特に、片岡先生には研究のいろはを教えていただき、毎日のように研究についてお話をしていました。実験や学会でうまくいかず落ち込んでいた際には優しい言葉をかけていただき、救われることが何度もありました。就職活動や資格取得などの相談にも乗っていただき、今では第二のお母さんだと思っています。また、市民工学科OBで近畿大学の河井克之先生、建設工学研究所の中西典明様にも、研究のご協力をいただきました。研究に行き詰った際にアドバイスをいただき、研究をより向上させることができました。先生方のご指導のもと研究と向き合う中で、地盤工学を学問として面白いと感じるだけでなく、仕事にしたいと思えるようになり、建設コンサルタント業界への就職を決意しました。いつかお世話になった先生方とご一緒にお仕事ができる日を夢見て、日々の業務に真摯に取り組みたいです。

最後にはなりますが、ここまで充実した学生生活を送ることができたのも、さまざまな場面で関わってくださった先生方、研究と一緒に取り組んでくださった先輩や後輩、苦楽をともにした同期、常に味方でいてくれた家族のおかげです。ありがとうございました。



卓球サークル



片岡研究室のメンバー

現役最前線

JR 東日本建設部門における仕事

東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス

花川 和彦 96C98M

1. はじめに

私は高田先生、森川先生のご指導のもと、1998年に修士課程を修了しました。兵庫県加古川市の出身ですが、日本の中心で大きな建設プロジェクトに従事したいとの思いから JR 東日本に就職しました。

入社以来、東北工事事務所、東京工事事務所、上信越工事事務所、鉄建建設㈱、本社建設工事部、本社国際事業本部、日本コンサルタンツ㈱で数多くの建設プロジェクトに従事し、現在は東京圏を中心とした鉄道建設プロジェクトを推進する東京建設プロジェクトマネジメントオフィス

(旧東京工事事務所、<https://www.jreast.co.jp/toko/>をご参照願います)にて、総武・東北という課のマネージャー(総括)として、千葉県、東京都、埼玉県、栃木県に点在するプロジェクトの推進に従事しております。本稿では、私がこれまで携わったプロジェクトの紹介を通じ、弊社の建設部門における仕事を紹介したいと思います。



2. 京葉線幕張豊砂駅新設工事

幕張豊砂駅は、幕張新都心拡大地区新駅設置協議会(構成員：千葉市・千葉県・イオンモール㈱)からの要請を受け、京葉線新習志野・海浜幕張駅間の幕張新都心拡大地区に2023年3月に開業しました(写真-1)。

私が従事したのは工事の最終盤ですが、開業前に土木施設の責任者として社内的な検査を実施した上で、国土交通省関東運輸局による完成検査を受検しました。この完成検査では、DX活用の一環として一部の



写真-1 駅舎外観

検測項目(ホーム幅・延長・上家延長等)に点群データを活用し、これまで人海戦術で計測し、かつ時間的な制約を受けていた作業を効率化させました。点群データ活用による完成検査受検は関東運輸局内では初めての事例となりました。

3. 宇都宮駅 LRT 交差プロジェクト

2023年8月にJR宇都宮駅の東側区間で芳賀・宇都宮 LRTが開業し、非常に利用が好調である旨のニュースを皆様もご覧になっていると思います。この LRT プロジェクトは JR

宇都宮駅を横断し、更に西側に延伸する計画となっております（図-1）。現在、弊社側にてこの横断箇所の構造物や JR 設備の支障移転に関する概略設計等を進めるべく、その条件等を宇都宮市と協議をしております。

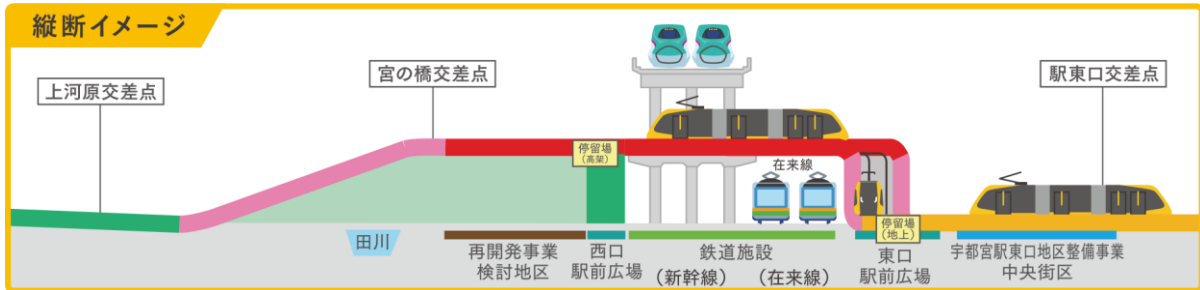


図-1 宇都宮駅横断箇所の縦断イメージ 出展 <https://u-movenext.net/westside/>

3. インド国ムンバイ・アーメダバード間高速鉄道プロジェクト

弊社は本プロジェクトの実施に当たり、日印政府間協議やプロジェクト推進の支援を行っています。私は 2015 年 12 月に日印政府間で協力覚書が交換された直後の 2016 年 3 月から本社国際事業本部で本プロジェクトに従事しました。2019 年 5 月からはグループ会社である日本コンサルタンツ㈱に出向し、約 3 年半、アーメダバード付近の 18.1 km にわたる「在来線近接部パッケージ」のチーフとして、駅及び高架橋の設計、入札図書作成、入札支援を行う業務に従事しました。ちなみに、コロナの拡大により 2020 年 3 月末に緊急帰国してからは、オンラインで業務を継続しました。

初めての国際建設プロジェクトへの従事、コンサルタント業務、海外滞在、聡明かつ貪欲なインド人技術者との協議など、大変な思いもしましたし、貴重な経験をさせて頂きました。現地では高架橋の工事も進捗しており、今後も開業に向けて当社の技術者が様々な分野で従事していきます。ご興味のある方は https://www.youtube.com/watch?v=nhsERK7-5_0 をご参照願います。

4. 最後に

本稿で紹介させて頂いた以外にも、河川改修事業に伴う JR 橋梁の架け替え（現在は川越線荒川橋りょうの架け替えに従事、https://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kisha_00702.pdf）、秋葉原駅、新宿駅、品川駅等の駅改良、新幹線や在来線高架橋の耐震補強、新幹線車両基地整備、連続立体交差化事業（現在は埼京線十条駅付近連続立体交差化事業に従事、<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/road/kensetsu/gaiyo/renritsu22.html>）、単独立体交差化事業なども担当してきました。

また当社もテレワーク・フレックス活用による働き方改革、電子決裁、BIM、点群活用、DX（ご参考 <https://calta.co.jp/>）などの業務変革にドラスチックに取り組んでいます。

今後も引き続き、これまで養ってきた鉄道技術を核として、地域、日本、そして世界の発展に貢献していきたいと考えております。暁木会ならびに市民工学科の皆さまとどこかでご縁がありましたら幸いです。皆さまの益々のご発展、ご活躍を祈念しております。

土木工学科⑮回生 同窓会報告

土木工学科⑮回生の同窓会を令和5年10月18日(水)、正午より楠公会館(湊川神社内)に於いて開催しましたので、その概要について報告させていただきます。今回は、卒業50周年を記念して、平成29年に一泊2日で開催しましたが、卒業55周年に当たる令和4年は、コロナ禍のため開催出来ず、この度開催の運びとなりました。結果的には、皆さん目出度く傘寿を迎えるタイミングとなり良かったと思います。

前回から6年の間に、コロナ禍を経験、歳を重ねたこと等を考慮して、開催方式について、一泊案の他に日帰り案(3案)を加えて希望調査を実施しました。結果は、「日帰り、時間帯は正午からの開催」希望が、大多数となりました。多分、高年齢になられたことが一因だったかもしれません。開催案内は約20名にメール、15名に封書でしましたが、参加者は16名(直前までは、18名)となりました。兵庫、大阪、京都、奈良が殆どでしたが、遠方の北海道、東京、岐阜県からも遠路はるばる参加して頂きました。

まず、6年間にお亡くなりになられた方々を偲んで黙祷を捧げた後、開会挨拶、乾杯に続いて、懇談に移りました。懇談の中で、皆さんに近況報告をして頂きましたが、流石に人生80年を経験してきてただけに、多種多様なコメントが続出しました。中でも、大手術をし余命が残り少なくなってきたこと、心臓の狭窄症の手術をしてきたこと、腰、膝関節症や難聴などを患っていること、奥様の病気の看護をしていること等々病気に纏わるコメントが多くあり、この歳になると誰もが健康問題などの悩みを抱えていることを痛感しました。他には、趣味の短歌、お経などライフワークに関する報告等が有り、終わり近くには、プロの歌手として活躍中の後久さんから高校野球の「栄冠は君に輝く」の清らかな独唱がリクエストにより披露されました。続いて、姫路分校の寮生だった数人からは、白陵寮歌が高らかに吟唱されるなど、和気藹々の内に旧交が温められ、有意義な時間が持てました。今後も元気な内に会えるのがベストとの主旨から、来年以降は毎年開催することにしました。閉会挨拶の後、全員本殿正面の階段前で記念写真を撮影し、その後2次会組と個別行動組に別れて散会としました。(文責 梶谷義昭⑮)



神戸大学工学部土木工学科15回生 同窓会
2023年10月18日 於 楠公会館

土木工学科③⑪回生 同窓会報告

学部卒業から早 40 年。変わっていない者もいれば、丸くなった者や薄くなった者も。でも出会った瞬間に気分はすっかり学生時代に逆戻り。そんな同窓会を、29 名の参加者と、高田先生、宮本先生、田中先生、清水先生のご臨席のもと（芥川先生は同級生でご参加）、昨年の 11 月 3 日にホテル北野プラザ六甲荘（神戸市中央区）で開催しました。

同窓会は 5 年ぶりの開催となりましたが、その間、コロナ禍により、私達の生活は一変しました。また、卒業時から振り返ってみると、平成 7 年には阪神・淡路大震災が発生したほか、土木を取り巻く環境も大きく変化しました。さらに、学生時代には想像だにできなかった ICT の革命的発展など、40 年も経過すると、私達が置かれた社会経済環境は劇的な変貌を遂げています。今回、そんな中をたくましく、或いはどうにかこうにか、はたまた要領よく生き抜いた面々が再開し、学生時代の思い出や、自分の近況など、一人ひとりが順次紹介する傍らで、各々が勝手に語り合いながら、あっという間の 3 時間を過ごしました。

やはり学生時代の友人は、掛け値なしでいいですね。時代は変われど、このことは、これから変わることはありません。気づけば既に全員が還暦を過ぎてしまいましたが、5 年後、10 年後でも、今回参加した 29 名以上の同級生と再開できることを祈りながら、同窓会は盛会のうちに閉会しました。

最後になりましたが、ご多忙中、ご出席くださいました 4 名の先生方には、心より感謝いたしますとともに、今後の益々のご健勝をお祈り申し上げます。また、今回の同窓会の企画・運営を担って頂いた幹事団の皆さん、本当にありがとうございました。

では、③⑪同窓生の皆さん、次回同窓会でお会いしましょう！（文責 安藤友昭③⑪）



東海支部総会報告

1. 日 時 令和 5 年 10 月 11 日（水）18：30～20：30
2. 会 場 PRIVATE DINING 点（ともる）名駅太閤口店
3. 出席者 来賓：竹山智英教授、石原茂本部長、支部会員：16 名
4. 議 事 令和 4 年度会計報告
令和 4 年度監査報告 ほか

令和5年度の東海支部総会は、山縣支部長をはじめ16名の会員が参加し開催されました。議事後、来賓としてお越しいただいた竹山教授と石原会長より、大学の近況や暁木会本部の活動についてご報告いただきました。

総会後の懇親会では、終始リラックスした雰囲気の中、職種や世代を超えて会話が弾み、懇親を深めました。

報告者：東海支部事務局 東邦ガスエンジニアリング㈱ 小山智也（14C16M）



懇親会の様子

広島支部総会報告

1. 日 時 : 令和 5 年 11 月 2 日 (金) 18:00~20:15
2. 会 場 : 広島ガーデンパレス
3. 出席者 : 【来賓】加藤正司准教授 (神戸大学)、新見達彦副会長 (本部)、
西本靖支部長 (岡山支部)、小野さゆり書記 (岡山支部)
【支部会員】7 名
4. 議 事 : 令和 4 年度会務報告・会計報告、広島支部役員紹介、
本部活動報告

支部活動の報告の前に、令和 6 年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。また、地震や津波等により被災した社会基盤施設の復旧や地域の復興に尽力される神戸大学卒業生の皆様のご健闘をお祈り申し上げます。

広島支部では、令和 5 年 11 月に大学より加藤先生、本部より新見副会長、岡山支部より西本支部長、小野書記をお迎えして、令和 5 年度広島支部総会を開催いたしましたので、上記のとおり報告いたします。総会では、支部事務局より会務報告・会計報告を行い、新見副会長より大学での卒業生による業界紹介や四国支部創設の動きなど、本部の活動状況を説明いただきました。また、加藤先生より教員体制や学生の就職状況、学内 (工学部等) がドラマのロケ地になったことなど、大学の近況について説明いただき、会員の方々は関心を高めていました。総会の後には懇親会を開催し、会員方が交流を深めました。

報告者：広島支部事務局 復建調査設計㈱ 木村裕行 (08C10M)

TEL : 050-9002-1742 / E-mail : h-kimura@fukken.co.jp



懇親会の様子

岡山県支部総会報告

1. 日 時 令和 5 年 10 月 21 日（土）
2. 会 場 ピュアリティまきび
3. 出席者 来 賓：鋤田泰子教授、坪本正彦本部副会長
支部会員：16 名（支部間交流の広島支部会員 2 名を含む）

今年度は大学から鋤田先生、本部から坪本副会長をお迎えし、また支部間交流している広島支部から小田秀樹支部長、事務局の木村裕行氏の 2 名の方にご参加いただき、支部総会を開催しました。

総会では、西本支部長の挨拶に続き、鋤田先生から大学の近況等を含めたご挨拶をいただいた後、先生の研究内容についてご紹介をいただきました。引き続いて坪本副会長から本部の活動状況などを織り交ぜたご挨拶をいただきました。

その後、支部役員の改選が行われ、西本支部長、桐野副支部長が共に留任で選出、会計報告も承認され、総会を滞りなく終えました。

総会後は、吉井顧問の乾杯の発声で、懇親会が始まり、お酒や料理が進むにしたがって歓談の輪が広がり、楽しく交流を行うことができました。盛況の中、最後は、桐野副支部長の一丁締めで、懇親会を終了しました。

コロナ禍以前と比較すると参加者数が少なくなっているため、今後も支部長、副支部長のもと、岡山県支部における暁木会の活動の輪を一層広げていけるよう努めていきたいと思っています。

報告者：岡山県支部事務局 岡山県土木部道路整備課 熊城秀輔（C03）



暁木会活動の紹介

暁木会は母校および KTC の発展に寄与するための事業、機関誌や会員名簿など刊行物の発行、ホームページの更新管理、ならびに会員相互の親睦に関する事業を行うために設立された団体です。ここでは、神戸大学イベントの支援活動をご紹介します。

1. 神戸大学ホームカミングデイ「橋の学校」イベントへの参画

- ・ 名 称： 第 17 回ホームカミングデイ 親と子の理科工作教室「橋の学校」
- ・ 日 時： 2023 年 10 月 28 日（土）13 時半～15 時
- ・ 場 所： 神戸大学工学部 工学会館横のスペース
- ・ 参加者： 小学 3 年生～6 年生 12 組

参加者は 3 組／班となって、3 つのコンテンツを入れ替わり体験していただきました。

- 1) 橋の模型製作： 橋の仕組みを学んでもらう（アーチ橋・トラス橋）
- 2) レンガアーチ体験： アーチ橋を実際に造って、歩いて、構造を体感してもらう
- 3) 紙で強い橋をつくろう： 紙の折り方によって強さが変化することを学んでもらう

子供だけでなく保護者の皆様にも積極的に体験いただき、限られた人数ではありましたが参加者の皆様には楽しんでいただけたかと思います。こうした機会を通じて、日頃何気なく利用している「橋」をはじめとした社会インフラ施設に対し、少しでも多くの方に興味を抱いていただく良い機会に繋がればと期待しています。



レンガアーチ



紙で強い橋をつくろう



アーチ橋・トラス橋模型製作

写真 イベント状況

2. 神戸大学市民工学専攻・市民工学科フットサル大会への支援

- ・日 時： 2023 年 11 月 5 日（日）14 時～17 時
- ・場 所： 六甲アイランド セレゾン 6ai フットサルクラブ（屋内・屋外）
- ・参加者： 研究室対抗に加え、研究室配属前の市民工学科の学部生

コロナ禍の中でしばらく開催されてなかった市民工学科の研究室対抗フットサル大会が、研究室配属前の学部生も対象とする形で開催されました。全 10 チームが参加し大変多くの学生の皆さんが、11 月とは思えない暑さの中、白熱した試合



を繰り広げていました。表彰式では、石原会長から優勝トロフィーの授与等が執り行われました。今後はフットサルに限らず他のスポーツ種別の採用も視野に、「暁木会カップ」として大会を開催していくことになるとのことで、今回の大会の開催に先立ち、新たに横断幕を寄贈させていただきました。

こうしたスポーツイベントは学生間のコミュニケーションの場として非常に貴重な機会でもあるとともに、多くの学生の皆様に暁木会の存在を PR できる効果的な場でもあるとの観点からも、暁木会としてもこうした活動に引き続き、積極的に応援していければと考えています。



終了後の記念写真



優勝カップの贈呈式



暁木会会長からの挨拶

写真 フットサル大会の状況

暁木一水会令和5年度活動報告&令和6年度活動予定

【令和5年度の暁木一水会の活動報告】

回	開催日	内容、講師	摘 要
165	R5.5.10	【講演会】 兵庫県、神戸市、大阪府の主要施策	兵庫県企業庁 長田 二郎 氏 神戸市建設局 小池 信司 氏 大阪府都市整備部 宍戸 英明 氏
166	R5.8.2	【講演会】 「鉄道事業の近況とグループの今後の展開」	山陽電気鉄道株式会社 代表取締役社長 上門 一裕 氏
167	R5.11.1	【見学会】東播磨道（小野市）、E-ディフェンス（三木市）	
168	R6.2.7	【講演会】 「土木復権の処方箋 -デジタルツイン がもたらすパラダイムシフト-」	神戸大学都市安全研究センター 教授 飯塚 敦 氏

【令和6年度の暁木一水会の活動予定】

回	開催日	内 容	講 師
169	R6.5.8※	【講演会】	兵庫県、神戸市、大阪府の職員
170	R6.7.31※	【講演会】	一般の講師
171	R6.11.6	【見学会】	
172	R7.2.5	【講演会】	母校の先生

※ 5月及び8月の例会は、会場の都合等により日時を変更しております。
お間違いないようご注意ください。

場 所 楠公会館（湊川神社内）住所：神戸市中央区多聞通 3-1-1 電話：078-371-0005
会 費 4 千円
連絡先 暁木一水会代表世話人 油井洋明㊟
連絡調整役 北田敬広 C98（神戸市役所） TEL：090-9888-0065

令和5年度総会のご案内

令和5年度総会を下記のとおり開催いたします。多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

- ・ 日 時： 令和6年3月26日（火） 午後6時～午後7時20分
- ・ 場 所： 湊川神社 楠公会館（URL: <https://www.minatogawajinja.or.jp/nankou/>）
- ・ 懇親会： 総会後に同会館内で開催いたします。午後7時30分～
あわせてご出席いただきますようお願いいたします。
会費5,000円は、当日お支払いいただきます。
- ・ 連絡先： 暁木会常任幹事 奥西文伸 C96（阪神高速道路株式会社）
TEL（090-7117-2782）、E-Mail（info@gyoubokukai.jp）

会費納入のお願い

暁木会は、会員の皆さまからいただく会費を主な収入源として運営しています。各界で活躍の会員の皆さまのお力添え、応援をぜひ暁木会の活動に賜りたく、どうかそれぞれの活動に関心を寄せていただくとともに、この機会に会費納入をご検討いただければ幸いです。ここに、会費納入の方法をご案内いたします。

1. 年会費額

3,000 円

2. 会費納入の手続き

会費納入の手続きをご希望される方は、暁木会事務局（info@gyoubokukai.jp 宛）に氏名と連絡先を記載したメールをお送りください。後日暁木会事務局から「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」と「返信用封筒」を郵送いたします。手続き完了後は、集金代行業務を委託している三菱 UFJ ニコス株式会社にて、ご指定の金融機関から口座振替（自動引落とし）をいたします。登録情報の変更や登録の解除をご希望される場合は、暁木会事務局（info@gyoubokukai.jp 宛）にご連絡ください。会費納入手続きの情報は、ホームページ（URL <http://www.gyoubokukai.jp/nenkaihi/nenkaihi.html>）にも掲載しています。

3. 口座振替の時期

毎年 10 月下旬ごろの予定です。

おわりに

最後になりましたが、暁木会ニュース第 50 号の発行にあたり、執筆を引き受けていただいた皆さまにはたいへんなご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

暁木会ニュースでは、会員の皆さまからの記事を募集しています。会員相互の親睦を深める機会に頼りといたしますのが、皆さまからの情報になります。同窓会などを開催された際には、その様子をぜひ寄稿してください。

暁木会の活動に関して、ご意見、ご要望などございましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

発行者： 暁木会

【E-mail】 info@gyoubokukai.jp

連絡先： 常任幹事広報担当 中屋行雄 C96
株式会社神戸製鋼所

【TEL】 070-2281-1381

【E-mail】 nakaya.yukio@kobelco.com